

## 大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	京都大学
整理番号	Ⅱ-3
事 業 名	「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</span>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p>                     本事業は、ASEAN 諸国に加え、中国、韓国、南アジア、オセアニア、欧米の国々においてアジア研究拠点を有する 37 大学がアジア研究国際コンソーシアムを形成し、SEND プログラムにより日本人自身が日本を再発見するというプロセスを経験することで、広い視野と実践能力を持つグローバル人材を育成することを目的に実施された事業である。                 </p> <p>                     事業展開では、学部から大学院博士課程を包含するプログラムを段階的に構築しており、部局横断的に組織されたアジア研究教育ユニットの下で、ASEAN 諸国の大学及びそれを上回る多数の大学との間で、SEND プログラムを中核とする規模の大きな取組を行い、その規模を拡大してきた。その中で、ASEAN 諸国の大学と着実な学生交流がなされ、全学に開かれた系統講義「京都で学ぶアジアと日本」の実施など実績数も向上している。また、これまでの交流実績を活用した学生の受入体制も十分整えられており、事務体制の強化や外国人教員の採用等により、大学の国際化が行われている。学生の交流数については短期交流を中心に派遣・受入の双方で計画を大幅に上回っており、非常に多くの学生及び多様な大学との交流が実施されている。今後は、ASEAN 諸国において単位取得を伴う交流や長期の交流を進展させることで、更なる成果を挙げるとともに、我が国のグローバル展開力の強化に貢献していくことが期待できる。                 </p> <p>                     一方で、SEND プログラム以外については、部局ごとの取組がそれぞれ別個に実施されているのが実情であり、真の部局横断的なプログラムとなるような統一的な評価基準による質の保証に向けた検討が望まれる。また、既存の体制に加え、体制の強化にあたって本事業での経験や実績が果たし得る役割についても検証することが必要である。                 </p> <p>                     最後に、SEND プログラムを中心に ASEAN 諸国をはじめ広域の国・地域を対象に、複合的な視点と実践能力の下で我が国とアジアを再発見できる人材の育成は極めて重要であることから、京都大学には、「日本再発見」から更に踏み込んだ人材育成と、質の保証を兼ね備えた我が国の大学の世界展開力強化に向けた取組に期待する。                 </p>